

経カテーテル的左心耳閉鎖術

心房細動による脳梗塞などの全身塞栓症予防には、塞栓症リスクを評価のうえ、「抗凝固療法」を行います。抗凝固薬により心房細動がない患者さんと同程度まで塞栓症リスクを下げることができますが、薬物治療は全身に効果がおよぶため、脳出血を含めた出血のリスクがつきまといきます。しかも、抗凝固療法が効果を発揮するためには薬を飲み続けなければいけません。

一方、心房細動に伴う血栓は、その90%以上が血液のよどみやすい「左心耳」に生じます。「経カテーテル的左心耳閉鎖術」は、カテーテルを用いてこの左心耳を永久的に塞いでしまうことで、血栓ができることを防ぎ、脳梗塞を予防する治療です。脳梗塞効果は薬と同等で、慢性期の出血を減らすことが可能です。抗凝固療法による出血でお困りの患者さん、もしくは出血リスクの高い患者さんがこの治療の対象となります。術後、左心耳が完全に閉鎖されるまで、抗凝固療法など血をサラサラにする薬を続ける必要がありますが、外来での経食道心エコーやCTで評価し、段階的に薬の減量・中止が可能です。

外来で術前検査（経食道心エコー・心臓CT）を行い、循環器内科・脳卒中血管内科など複数の診療科で構成されるブレインハートチームカンファレンスで治療方針を検討します。

治療2日前にご入院いただきます。手術は全身麻酔下に足の付け根の静脈を通じて心臓までカテーテルを進め、X線と経食道エコーをガイドに左心耳にデバイスを留置します。手術は1時間程度で終わります。左心耳の大きさや形が閉鎖デバイスと適合しない場合には、まれながら中止させて頂く場合があります。通常術翌日から歩行可能となり、術後2日目以降、日常生活に問題がないことを確認してから退院となります。（図：左心耳閉鎖デバイスの留置イメージ）

